

## 韓国薬学研修報告

國正 淳一

韓国研修引率

### 概要

平成28年8月17日から20日まで韓国薬学研修を行った。2日目の8月18日はイルサンキャンパスの東國大学校薬学大学を訪問し、その附属病院とその関連の調剤薬局でも研修を行った。見学した施設の概要について報告する。

### 付属病院

付属病院（図1）は大学のすぐ近くに隣接されていて、当日は入口を入ってすぐの1階のエントランスホールに我々を歓迎する電光掲示板（図2）があった。

病院では最初に薬剤部を訪問した。調剤室には通常の調剤棚に加えて、よく使用される薬のために円形の調剤棚（図3）も設置されていた。麻薬金庫（図4）は大きなものが何台も並んでいて壮観であった。調剤は錠剤・カプセル剤については処方オーダーリングから直接一包化調剤機器にデータが転送されて、自動的に調剤されるようになっていた。調剤室以外では製剤室、無菌調製室、医薬品情報室を見学したが、いずれも日本の病院と同様の規模と仕事内容であった。



図1



図2



図3



図4

院内には病棟、外来ともに西洋医学と韓方医学の専門スペースがあり、それにもなつて製剤室や調剤室も韓方のためのものがあつた。韓方の外来では鍼灸科で実際の患者さんに鍼治療を実施しているところを見学させていただいた(図5)。また、韓方外来の中にビューティーケアセンター(図6)という部門もあり、日本の美容皮膚科に似た治療を韓方で行っていた。

韓方の製剤室では煎じ薬を製造する機械(図7)や器具(図8)が並んでおり、丸剤や経口ペースト剤を調製する機械もあつた。これらは日本の病院ではほとんど見

られないものであり、様々な製剤技術を保持していることが患者サービスに繋がるのが感じ取れた。

また、韓方の調剤室では本学の学生と東國大学校の学生が一緒になつて、韓方専門薬剤師の先生に様々な生薬を見せていただいた(図9)。中でも全虫(図10)という生薬は、サソリやミミズなどの数種類の生物をミックスした珍しいものであつた。韓方専門薬剤師は一般の薬剤師とは別の資格として専門の学科を卒業して取得しなくてはならないことが日本と違って興味深かつた。



図5



図6



図7



図8



図9



図10

## 調剤薬局

続いて付属病院の門前の調剤薬局（図 11）を見学した。大学病院の周囲には多くの薬局があり、ひとつの薬局に1～2名の薬剤師が働いていて、テクニシャンも使っていた。こちらでも錠剤の調剤は一包化の機械（図 12）で行っていた。常備されている散剤は少なく、必要があれば錠剤を粉碎して調剤していたが、その際に発生する粉じんの吸引処理には注意を払っていた。処方せんは受け付けるとすぐにデータを中央の保険審査機構に送信し



図 11

ており、複数の薬局から薬が重複して投薬されてもリアルタイムに歯止めがかかるようになっていた。

## 全体を通して

今回の訪問で最も素晴らしいと感じたことは実習中の韓国の薬学生の雰囲気である。病院でも調剤薬局でも学生たちは来訪者に対して礼儀正しく、患者に対しても笑顔で細やかな気配りを見せていた。本学の学生にとって非常に良い見本になるものであった。



図 12